

1 平成30年度の重点的な取組事項

<達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る>

重点的な取組事項－1 学力向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
国語科、算数科における基礎基本の定着	区学力調査における通過率 国語 75.0% 算数 75.0%	区学力調査における通過率、国語 69.2%、算数 73.2%	達成基準を国語で 5.8ポイント、算数で1.8%下回った。放課後や夏季休業中の補充教室を継続し、基礎的基本的な学習内容の一層の定着を図ることが課題。	△

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学習のつまずきに応じた指導の充実	対象となる児童の基礎学力を20%向上する(区調査4月→1月)	<ul style="list-style-type: none"> 区調査分析による対象児童抽出と目標設定 週2回以上の補充教室(30分間) 基礎基本の時間の組織的指導体制 MIMの完全実施 	<ul style="list-style-type: none"> 抽出した対象児童は保護者の理解のもと高2応じた目標を設定した。 週2回実施した放課後補充教室対象児童の正答率は10月調査で国語が77.2%まで上昇したが、算数はほぼ横ばいであった。 夏季補充教室は専科教員を含めた全校体制に学習支援ボランティアを活用し、個別指導を実施した。 基礎基本の時間の完全実施(年30時間超) MIMの完全実施で支援の必要な児童への早期対応を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の時間とそだち指導、学習支援ボランティア等を活用し、個に応じたつまずき解消の指導を進めることができた。 放課後補充教室が着実に実施され、基礎基本の時間と合わせて学習意欲の向上につながっている。 MIMは毎月の個別の支援計画を十分活用することで、さらに高い効果が見込まれる。 	○
授業力の向上	足立スタンダードの定着 国語 80.0% 算数 80.0%	<ul style="list-style-type: none"> 国語・算数の授業観察 校内研究の実施(国語) 教科指導専門員の活用 若手研の計画的実施(主任教諭の活用) 	<ul style="list-style-type: none"> 管理職による授業観察を実施した。 校内研究を実施し、若手・中堅・ベテランがそれぞれ授業を実施した。 足立スタンダードに基づく教科指導専門員からの指導を若手のみならず中堅以上の教員にも実施した。 若手研は校内研究の一環として実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究に取り組んだことで、授業力向上への意欲が高まった。 足立スタンダードの定着には教員個々の差があるため、さらに定着を図っていく。 	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
中学校との連携、保育園との連携	育てたい子供像を明確にした授業研究と学級経営	<ul style="list-style-type: none"> ・教科別分科会による研究授業（各3回） ・保育園との交流研修（1年担任各2回） ・園との情報交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・連携3校それぞれで研究授業を実施、その他、全体会2回、指導案検討2回の年7回小中連携の会を実施。 ・幼保小連携全体会（情報交換）を年2回、園との職員相互交流研修をのべ8回、交流授業と給食、学芸会の見学等、園との体験交流を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科ごとに小学校と中学校が連携して育てたい児童像を具体化した上で、言語活動の充実を目指し授業研究を深めることができた。 ・保育園との交流研修を通して、授業の進め方に工夫を加える教員が増えるなど、実際の指導場面での成果が見られた。 	○

重点的な取組事項－2 児童がより安全に、安心して学ぶことのできる環境を確立する。

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
児童にとって安全・安心な学校生活を確立する。	保護者アンケート「安全・安心に関する項目」：肯定的な回答90%以上	保護者アンケート「安全・安心に関する項目」で、肯定的な回答が92.6%となった。	<p>いじめの早期解決に徹底して取り組んだ。</p> <p>施設・設備は全教職員で点検をした。校舎の老朽化のため、施設の不具合が多く、根本的な解決が急がれる。</p>	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
いじめのない学校生活の充実	いじめ解決率100%	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ相談箱やHyper Q - U検査によるいじめの早期発見および早期解決。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談箱は随時校長が確認し、迅速に対応した。 ・QU調査を活用し支援を要する児童のケアを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめに関しては解決に向け素早く徹底して対応し、学級が温かな雰囲気になった。 ・小さな変化やきっかけを逃さないよう、丁寧な児童理解に努める。 	○
安全・安心な学校の充実	学校施設の安全に関するアンケートでの肯定的回答85%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の施設点検 ・施設の不備に関する早期改修 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職の巡回と用務主事、警備員による報告は、事務室と連携して危険箇所を最優先に修繕した。 ・各教員は毎月の点検表を提出し、緊急以外の改修等に対応した。 ・学校施設の安全に関するアンケートでの肯定的回答が93.9%となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の不備や危険箇所は多くの目で見ており、迅速な対応ができています。 ・施設の老朽化により不具合が次々と生じるため、安全面では引き続き注視していく。 	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
あいさつの徹底	元気よくあいさつができる児童80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職・複数の教員 ・PTAによる校門での挨拶(毎日) ・4年生以上によるあいさつ運動(蒲原中学との連携を含む) ・来校者へのあいさつを各学年で指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートではあいさつ運動等の取り組みについて肯定的な評価が90.6%に達した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的にあいさつができる児童が着実に増えてきている。 ・あいさつの効用を実感でききるような取り組みを充実させていく。 	○

重点的な取組事項－3 保護者や地域とともに子供を育む学校づくりを進める。

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者や地域との連携を図り、教育活動を進める。	学校評価アンケート「家庭や地域との連携に関する項目」：肯定的回答90%以上	学校評価アンケート「家庭や地域との連携に関する項目」で肯定的な回答が98%近くに達した。	保護者と協力して課題を解決するとともに、学校の状況を広く地域に知らせることで、温かな協力を得ることができた。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者との共育体制の確立	授業参観・保護者会等の肯定的回答85%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観、保護者会の内容の改善充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートでは直接授業参観・保護者会に関する設問はなかったが、概ね肯定的な回答を得た。 ・保護者会では学校の教育活動についてわかりやすく端的に伝えるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会を3回から2回に減らし、個人面談を年2回に増やし、保護者との共育体制づくりが進んだ。 ・授業参観の参加率も高く、引き続き関心をもってもらえるよう情報を発信していく。 	○
PTA や開かれた学校づくり協議会を中心とした協働体制の確立	学校評価アンケート「家庭や地域との連携に関する項目」：肯定的な回答85%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・各部活動への協力 ・各学年の活動との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートの「家庭や地域との連携に関する項目」で肯定的な回答が97.7%に達した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA 主催のこどもまつり(フェスタ)、マラソン大会、講演会に協力し、成功することができた。 ・開かれた学校づくり協議会への教員の参加率も高まり、地域学習での協力を得ている。 	○
体験的学習場面の設定	校外学習・講師による授業等体験的学習を各学年5回以上	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピック教育の組織的計画的推進 ・PTA・開かれた学 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習は3年生以上で実施した。 ・講師による授業等体験的学習はを各学年3～5回程度 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックパラリンピック教育の一環として、外部講師を招喚した体験授業は児 	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
		校づくり協議会との連携による体験的学習場面の設定	実施した。	<p>童の心に残るものとなった。さらに、学年を広げ実施する。</p> <p>・地域学習において開かれた学校づくり協議会委員の協力を得て、充実した学習をすることができた。</p>	

2 学校活動全般について

本年度は、「学力向上」「児童がより安全に、安心して学ぶことのできる環境の確立」「保護者や地域とともに子供を育む学校づくり」に取り組んだ。

「学力向上」については、パワーアップタイム、放課後学習教室、そだち指導、学習支援ボランティアの活用を充実させ、基礎基本の時間での使用教材の選定と活用について一定の成果をもたらすことができた。また、年間を通して国語の校内研究に取り組み、教員の授業力向上を図ってきた。今後も、本年度設定した学力調査における達成基準をクリアすべく、学力定着部を中心に児童の学習定着状況の把握と個々のつまずきに応じた適切な指導を進めていく。

「児童がより安全に、安心して学ぶことのできる環境を確立する」ことについては、特にいじめに関する課題について校内の報告・連絡・相談体制が整ってきている。今後も迅速に対応し100%解決を前提に組織的に取り組んでいく。また、教員の研修も計画的に行い、それぞれの学年の特徴や課題を踏まえ、各学級・学年で児童と教師との間のより望ましい人間関係の構築を目指す。

「保護者や地域とともに子供を育む学校づくりを進める」ことについては、保護者や地域に向けて学校の教育活動についてわかりやすく伝えるようにしたことで、学校への理解と協力をいただいている。また、PTA活動へ積極的に協力し、保護者との共育を推進した。オリンピック・パラリンピック教育、校外学習、地域の人材を活用した体験活動の充実を図ってきた。今後も保護者、地域とともに豊かな心を育成に向けて体験的活動の機会を増やしていく。

3 保護者や地域へのメッセージ

- ◎ 基礎的基本的な学習内容の確実な定着に向けて、パワーアップタイム（始業前の学習）や放課後補充教室、そだち指導員の活用、学習支援ボランティアの活用、夏季補充教室等に取り組んできました。平成31年度には、区の学力調査や単元ワークテストの結果を分析して児童の学習のつまずきをより明確にし、効果的な指導体制を組み基礎学力の向上に取り組んでまいります。
- ◎ 安全・安心な学校を確立するために、いじめ防止マニュアルや不登校防止マニュアル等を活用するとともに、問題の未然予防・早期発見・早期解決に向けて校内委員会を設置し、組織的に取り組んでいます。今後は未然予防の取り組みを一層充実させていきます。また、施設・設備の不備は随時点検を行い、迅速に修繕し、安全な環境の維持に努めます。
- ◎ 校外学習や外部講師の活用を図り、体験的な学習場面を意図的に設定します。31年度は、オリンピック・パラリンピック教育の体験学習を複数の学年に広げるとともに、地域の歴史や農業について、地域人材を活用し、学ぶ楽しさを感じられる学校づくりを計画的に推進していきます。